

## 中国朝鮮族のことわざの使用状況

李 惠 敏

ことわざは、時代を経て発展を遂げてきた知恵の結晶であり、社会通念や人々の生活を色濃く反映している。生活の現し身（うつしみ）ともいえるその特性のために、ことわざは年代、地域、民族によって多様に変異する。中国朝鮮族は、現在中国に住む 56 の少数民族のうちの一つであり、朝鮮半島から約百年前から移民し始めて定着した民族である。中国に居住して以来、朝鮮族は自分らの生活圏と文化を築き独自の言語教育などを行いつつも、漢族や満族などと共生する中で、他民族の文化や風習の影響も受けながら今日に至っている。

朝鮮族が他民族から受けた影響は多岐にわたるが、言語面においても多くの影響を受けてきた。かつては、朝鮮族の言語である朝鮮語だけで生活することも可能であったが、現在では、中国語ができなくては様々な面で不便と不利益をこうむることになる。したがって、現在の学校教育において中国語を習わない朝鮮族の学生はほとんどない。朝鮮族のほとんどは朝鮮語と中国語とのバイリンガルであり、両言語を使い分けながら生活している。数十年に及ぶこの状況が朝鮮族の朝鮮語に影響を及ぼさないはずはなく、言語生活の様々な面でその影響がみられる。ことわざもその一つである。

中国朝鮮族が使うことわざのルーツはもちろん韓国・朝鮮語にある。しかし、漢族、満族をはじめとする多民族の文化との接触を通じて、ことわざの使用にもその影響が及んでいると考えられる。今回の発表では、中国と韓国で出版されたことわざ辞典を資料として、朝鮮族のことわざ使用の一端を指摘する。資料としたことわざ辞典は次の 2 点である。

延辺人民出版社編『朝鮮語諺語詞典』延辺新華書店、1981 年

송재선著『우리말 속담근사전 (韓国ことわざ大辞典)』서문당, 2006 年

バイリンガリストとしての朝鮮族は、日常的に多くの中国のことわざや成句、四字成語などに接したり使ったりしている。例えば次のようなものである。

百闻不如一见（百回聞くのは一回見るのに及ばない）

是药三分毒（薬であっても三分の毒がある／薬も過ぎれば毒となる）

家家都有难念的经（どの家にもそれぞれみなお家の事情がある）

丑话说在前头（悪い話は先に言う）

饭吃八分饱（ご飯は八分食べる）

人老心不老（人は老いても心は老いてない）

原来如此（なるほど）

随遇而安（どんな境遇にも案じます）

来者不善（来者善からず、善者来たらず）

百吃不厌（百回食べても飽きない）

话中有话（話しの中に話がある／裏には裏がある）

对牛弹琴（牛に琴を引く牛に経文／馬の耳に念仏）

一方、朝鮮語のことわざのうち、朝鮮族が独自に発達・変貌させたと考えられるものとしては次のようなことわざがある。

강남 갔던 제비 고향산천 몰라본다 江南に行って来た燕故郷の山河知らず（人々が山や川を治めて環境が変わり果てたことの喩え）

거름산이 높아야 량식산이 높아진다 肥料の山が高ければ糧食の山が高くなる (収穫率を高めるために肥料を沢山用意する重要性を指す)

글속에 글이 있고 말속에 말이 있다 字の中に字があり、言葉の中に言葉がある (他人の文や言葉を漏れなく理解せよ)

기러기떼도 코기러기가 있어야 하고 양떼들도 코양이 있어야 한다 雁の群れもリーダの雁がいて、羊の群れにもリーダの羊がいる (群衆の前に立って群衆を引っ張っていく指導者の重要性の喩え)

도문강이 팔죽이라도 곰방술이 없어서 못먹는다 凶門江が小豆お粥であってもスプーンがなくて食べられない (とても簡単に手に入ることもしようとしないう融通がきかない怠け者の喩え)

물은 근원이 없으면 끊어지고 나무는 뿌리가 없으면 죽는다 水は水源がないと絶えてしまい樹は根がないと死ぬ (源がないと生きることができないの喩え)

밭에 풀이 무성하면 호랑이 새끼치게 된다 畑に草が生い茂っていると虎が子産むようになる (仕事をきちんとやらないと悪い結果を招くの喩え)

벼이삭은 익을수록 고개를 숙인다 稲は熟すと頭をさげる (実るほど頭を垂れる稲穂かな)

사람이 천냥이면 눈이 팔백냥이다 人が千量であれば目が八百量である (人にとって目が一番重要であるの喩え)

저울추는 작아도 천근을 뜬다 秤のおもりは小さいけど千斤を量る (いくら小さいものでも自分がすべきことはちゃんとする喩え。辛子は小さいけど辛いと同じ意味)

화분에서 만년송을 키울수 없고 뜰에서 천리마를 길들일수 없다 植木鉢で万年松を育てず、庭の中で千里馬を養えぬ (人は広い世界で幾どの波瀾を乗り越えて鍛え成長しないといけない)

떡메를 메고 기장밭으로 간다 餅の杵をもってキビの畑に行く (性格がとてもせっかちであるとか、仕事をする時順番無視して急いでやる人やことの喩え)

빠른 바람에 굳센 풀을 안다 猛烈な風で草の力が分かる (辛抱強く苦勞に耐えて試練を経てこそ人の心や強い意志を知るの喩え)

어제가 다르고 오늘이 다르다 昨日が違って今日が違う (世の中の変化が速いことの喩え)

엄한 단련이 어머니의 사랑보다 낫다 厳しい鍛錬が母の愛よりましだ (人は世の中と接して厳しい波瀾の中で鍛えないといけない)

오리발을 그리다 アヒルのあしを描く (文字を綺麗に書けない人と言う時の喩え)

은혜를 모르는건 당나귀뿐 恩恵知らずはロバのみ (行く情けがあれば来る情けがあると同時に、恩恵に帰さない人はない)

이쁜 도적 可愛い泥棒 (娘が嫁に行って新生活をする時、欲張りで良く実家のものをもって行こうとし、親は取られても、いつも娘が可愛くてやってあげようとしている、その娘を指すこと)

잇대여서 자면 사람이 죽는다 人の足もとに頭を置いて寝ると死ぬ (何人か一緒に寝る時頭と足をつないで寝ないようにのこと)

의복이 날개 衣服が翼 (衣服は服の意味で、漢字語の読みとして)

외상이면 당나귀(소)도 잡아먹는다 つけだったら、ロバも殺して食べる (後のことは考えずに目先の利益を求める様)

왜지밭으로 간다(달아난다) スモモの畑に走る (人の言うことを聞かずに自分の意見を主張すること。子供によく使う。)